

主題	利用者、職員、施設の取り組みを活性化するポイントカードの活用方法についての研究
副題	楽しみ！やる気！効果！を繋げる3拍子揃ったポイントカード
オリジナルポイントカード	
オリジナル利用券（偕楽券）	

研究期間	24ヶ月	事業所	サービス種別・事業所名：軽費老人ホーム 偕楽荘
発表者：ケアワーカー 鈴木 利治		アドバイザー：	
共同研究者：生活相談員 岡 靖晃			

電話	042-376-1711	メール	Oka@rakuyuukai.com
FAX	042-337-0327	URL	http://www.rakuyuukai.com/

今回発表の事業所やサービスの紹介	軽費老人ホーム A 型偕楽荘は昭和43年に開設し、平成8年に現在の多摩市山王下に移転しました。同一社会福祉法人には軽費老人ホーム以外に特別養護老人ホーム、在宅サービスセンター等を有しています。多摩市のほぼ中心にある多摩センター駅より徒歩約15分の高台にあり、晴天のときには今年世界遺産に登録された富士山を眺められる見晴らしの良い立地にあります。
------------------	--

《1. 研究前の状況と課題》

施設や職員はご利用者の介護予防やボランティア活動、楽しみのある生活への取り組みを重視している。しかし、最近はご利用者一人一人の個人的な活動が増えてきていることや、ご利用者同士の関係の希薄化などから、以前は多くの方が参加されていた施設内の活動にも参加される人数が少しずつ減少している。そのため、職員の日々の取り組みや施設機能の効果が十分に発揮されない可能性がでてきており、またご利用者同士の交流も希薄化する恐れがある。

《原因として》

- ・ご利用者には選択の自由があり、施設内活動には必ずしも参加しなくてもよい
- ・ご利用者同士が誘いあって参加する様な雰囲気ではなくなっている
- ・介護予防には参加されても、その他の活動には参加しないなど、個々の興味が行動決定の要因となる

《課題》

- 1、施設の取組みへの参加人数減少
生活の活性化、介護予防などへ施設が持つ機能を有効に活かせなくなる
- 2、ご利用者同士の交流の希薄化
施設内での人間関係が希薄化して孤立するご利用者が増えてしまう懸念がある
- 3、職員の取組みや施設機能の効果が十分に発揮されない
職員のモチベーション低下、施設としての機能が低下してしまう可能性がある

《2. 研究の目標と期待する成果・目的》

《目標、期待する成果》

- 1、ご利用者が積極的に施設の取組みに参加され、ご利用者同士の交流が活発になる。
- 2、施設の様々な取組みがつながりを持ってご利用者の生活に効果的に機能する
- 3、施設の取組みに対するご利用者の評価がわかりやすく職員に伝わる

《3. 具体的な取り組みの内容》

1、参加者減の原因確認

参加者にアンケートを実施し、参加者が少なくなってきた背景を確認。

2、積極的な参加を促す仕組みを検討

参加する楽しみを増やすことを考え、施設独自のポイントカードを作成し導入。

3、ポイント対象の取組みを増やす

施設が行う様々な活動がご利用者に効果的に機能するよう、施設の各取組みをポイントカードでつなげた。

4、ポイント還元の仕事を作る

さらにご利用者が活動の場を広げ、ご利用者同士の交流の場を増やし、もっと施設内の様々な活動に参加する意欲を喚起しようと、溜めたポイントがご利用者自身に還元できる偕楽券という仕組みを作った。

5、偕楽券を使用してもらう

ご利用者の楽しみの場として提供しているカラオケ喫茶の参加人数が増え、ご利用者同士の交流が活性化されるのではと、カラオケ喫茶で有料の飲み物と引き換えることを開始。

6、再度アンケートを実施

ポイントカード、偕楽券などが次第に浸透してきた状況で再度アンケートを実施し、今後に期待する事等を確認した

7、偕楽券使用範囲の拡大

偕楽券の使用範囲を広げる事で、日常的に様々な用途で使用ができるようにして、ご利用者が活動に参加する意欲の維持向上をはかった。

《4. 取り組みの結果と考察》

・施設が取り組む様々な活動の機会をポイントカードでつなぎ、またポイントを還元する仕組み設けることで、ご利用者が活動に参加しようとする意欲を向上させることができた。

・今まで参加していなかった活動に参加されるご利用者がでてきたことで交流機会が増えた。

・活動への参加者が増えることで施設の取組みに対する評価が得やすくなった。

《5. まとめ、結論》

・ポイントカードと偕楽券の活用により、ご利用者が施設の活動に参加されるきっかけを作り出すことはできた。

・もともと施設で行ってきた活動がポイントカードと偕楽券によってつながりを持ち、ご利用者と施設機能をつなげることにも効果があった。

・施設内でのアクティビティ活動など、当初期待していたほどの参加者増はまだみられていない。

《結論》

ポイントカードの活用はご利用者の”楽しみ”や”やる気”につながり、施設や職員の取組みがポイントカードによりつながりを持つことで、より”効果”的に機能することがわかった。今後は参加人数の増加がみられない活動などはそれ自体の見直しの必要性がある。またポイントカードは施設支援においてさらに多方面の活用ができるのではないかと検討している。

《6. 倫理的配慮に関する事項》

なお、本研究発表を行うにあたり、ご本人（ご家族）に口頭にて確認をし、本研究発表以外では使用しないこと、それにより不利益を被ることはないことを説明し、回答をもって同意を得たこととした。

《7. 参考文献》

《8. 提案と発信》

施設オリジナルのポイントカードを活用する事で、ご利用者のやる気や楽しみは得ることが可能となった。さらに、ポイントカードによってつながった、施設の取組みは職員のモチベーションにも発展する事ができた。

【メモ欄】